

2023年2月15日

報道関係各位

直方市
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

直方市と CTC、AR 環境で利用できるふるさと納税の返礼品について実証実験を実施 ご当地キャラの 3D データを NFT 化し、写真撮影を可能とする

直方市(市長:大塚 進弘)と伊藤忠テクノソリューションズ株式会社(代表取締役社長:柘植 一郎、本社:東京都港区、以下:CTC)は、ふるさと納税の返礼品の一部に、AR(Augmented Reality:拡張現実)環境を使ったアプリケーションを採用する実証実験を開始します。AR 環境では、ご当地グルメのキャラクター「焼きスパマン」の 3D データを利用した写真撮影をすることができます。本実験は 2023 年 12 月まで行い、納税者からの意見や利用用途などのデータを取集し、直方市への観光誘客につながるかの検証を行います。今回、福岡県の地方自治体としては、初めての取り組みとなります。

直方市は、福岡県の北部に位置する商工業都市で、米や苺などの農産物が豊富にあり、筑豊炭田の歴史を紹介する石炭記念館もあります。ただ、大規模な観光誘致には時間と費用が掛かるため、より効果的に街の特色を伝える方法を探していました。

今回の実証実験では、直方市がふるさと納税の返礼品としてデジタルデータを活用するにあたり、CTC は、直方市のご当地キャラクター「焼きスパマン」の様々なポーズをデザインした 3D データを作成しました。3D データは、ブロックチェーンの技術を使った NFT(Non-Fungible Token:代替不可能なデータ)に加工され、直方市からの正式な返礼品であることが証明されています。スマートフォンやタブレットを用いて、場所や時期に応じて「焼きスパマン」と一緒に写真撮影を楽しむことができます。

AR 環境は、ゲームの映像や音进行处理するツールを使って CTC が独自に開発しました。Web ブラウザ上で 3D データの高速処理を可能にする技術も採用し、利用者は専用のモバイルアプリを必要とせず、3D データの映像を閲覧することができます。

また、筑豊地方で石炭を輸送していた「コッペル 32 号機 蒸気機関車」をモチーフにした NFT も作成し、ふるさと納税の返礼品として提供される予定です。

直方市と CTC は今後も、地域社会の活性化につながるアイデアや施策を追求し、地域住民の更なる暮らしの向上に努めていきます。

<3D データ化されるモデル>



焼きスパマン



コッペル 32 号機 蒸気機関車

- ※ 記載されている商品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。
- ※ 掲載されている情報は、発表日現在の情報です。最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。

以上

<報道機関からのお問い合わせ先>
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
広報部
[E-mail:press@ctc-g.co.jp](mailto:press@ctc-g.co.jp)